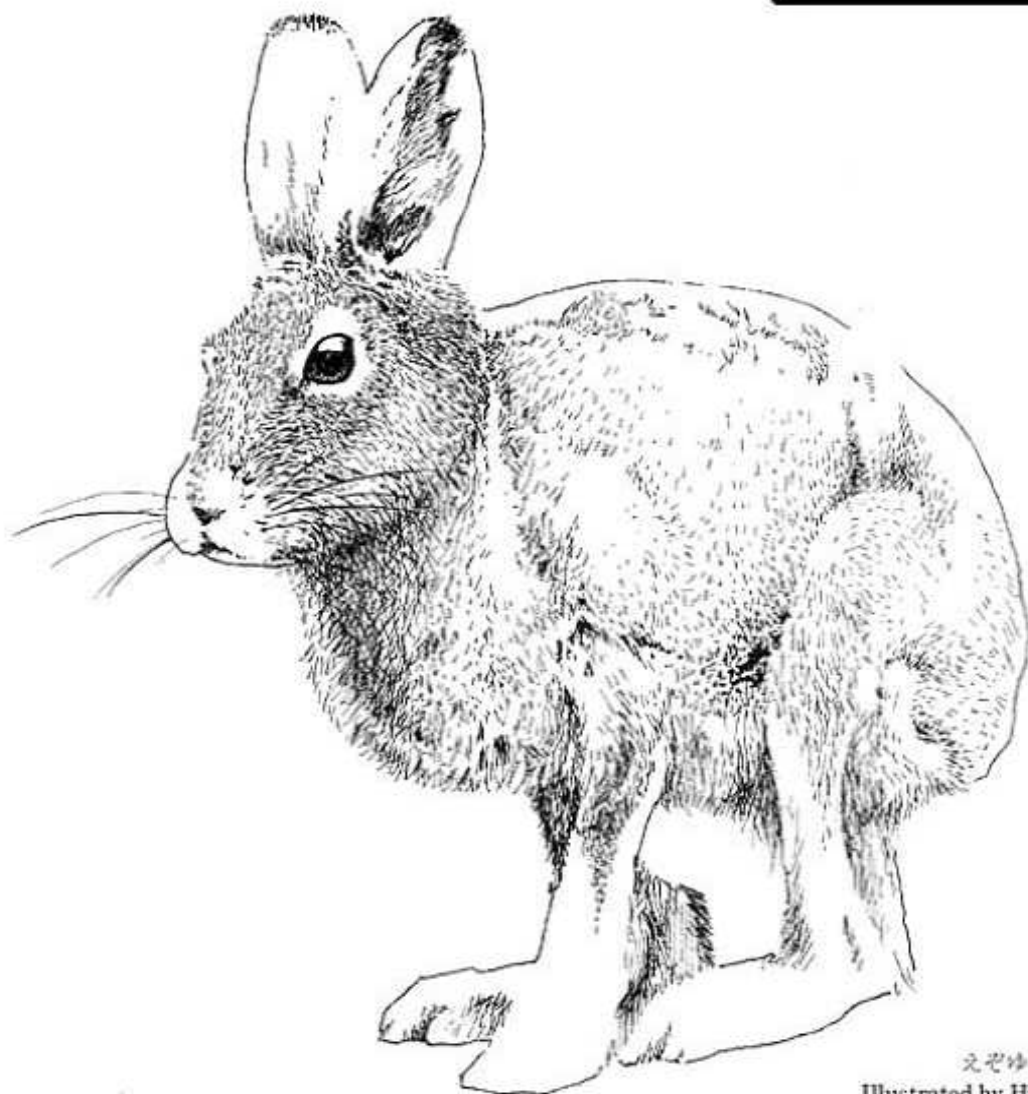


The Correspondence of
Noboribetsu City Nature Center

登別市ネイチャーセンター ふおれすと鉦山
ニュースレター

鉦山
録



えぞゆきうさぎ
Illustrated by Hiyama T.

Contents

Vol. 17
July 2006

| | |
|-------------------------|---|
| 特集 | |
| ふおれすと鉦山の 2006 年..... | 2 |
| オープンから 49 ヶ月の活動報告..... | 4 |
| Kozan Hot Times..... | 5 |
| リトル・ヴォイス ～リレーエッセイ～..... | 7 |
| お知らせ..... | 8 |

特集

ふおれすと鉱山の 2006年

真の意味の協働を模索するこの年、
真の意味の協働に向けて
ふおれすと鉱山はどんな道筋を
つけている？



ネイチャーセンターは ヒューマンセンターだと思う。

空気がこもり気味な曇りのある日。外へ出たとたん、あるスタッフがつぶやいた。

「ニセアカシアの匂いがしますねえ～」

この一言に、わたしは、目からうろこがとれる思いだった。そうか、においも、 かぁ。

春の芽吹き頃、森を彩る『春もみじ』をみて、毎年あらためて感じていることがある。ピミョウに色の違う木々が生み出す『春もみじ』。色の違いが、樹種の違いである。樹木の種類の多さが、その彩りに反映されるのだ。ああ、鉱山の森にもいろんな種類の木が育っているのだなあと、感慨じみてしまう。

匂いも、そうなのだ。匂いの数だけ、多種多様な生き物がいる証拠。樹木の根っこに広がる土が醸し出す匂いもあり、そこに息づく生き物たちの匂いもある。もちろん、彩り、匂いだけで森は語れない。鳥や川や風の音、目に見えない気配、雰囲気……。きっと、これらすべてがいろいろな様々あればあるほど、森の多様性は増していく。

なぜこんな話になったかという、そんな森の多様性のなかに「コラボレーション、協働」というコンセプトを強く感じているのだ。

登別市ネイチャーセンターは、＝（イコール）ヒューマンセンターであると最近しみじみ思う。

ここに集う人の多様性が、新たな人とひとのつながりを生み出し、力になって物事が進んでいる。森の中の植物も動物も土もそうであるように、関わるいろいろな人が、いろいろな役割を持って、このネイチャーセンターはあるのだ。

ふおれすと鉱山は、5年目を迎え、いろいろな役割を持って、市民が主導になって引っ張っていく時代が、はじまっている。

●今年度の目標と方針

来年度以降、運営形態を市の直営から指定管理者制度に移行する予定のふおれすと鉱山にとっては、今年は大切な過渡期となります。そんな平成18年度は、こんな目標に向かって邁進することになります。

●色々な要求に応えられるシステムをつくりたい。

今まで公共施設として行なってきた公共のサービスの枠を超え、ふおれすと鉱山の利用の幅を広げます（有料プログラムの模索）

●指定管理者の導入を見据えて。

2007年度を目途に、ふおれすと鉱山は指定管理者制度を見据え、市民が主導する協働スタイルとしての一運営への移行を考えます。

より緊密な協働を目指して毎月「運営会議」を開催します。

行政が主催した様々な事業は市民（NPOモモくら）が主体となって行うように移行します。

●もっとみんなの声を取り入れられる運営体制をつくりたい。

仕事をスリムに、そしてスムーズにしながらもっとみなさんの声を取り入れられる運営体制を模索します。



市民を主導とした新しい協働スタイルを求めて「ふおれすと鉱山」という場との仕組みづくりを目指します。

2006年は、こんな年に。

●鉱山町と鉱山町の自然にもっと関わるプログラムを。

自然を体験するだけでなく、もっと深く自然や人に関わるような、上質なプログラムを作り、提供していきます。

●みんなにやさしい施設とプログラムを。

障がい者や高齢者、幼児にもやさしい施設づくりを目指します。開けた雰囲気と、誰もが楽しめるプログラムを作り続けます。

バリアフリーな施設とサービスを展開します。

オープンから49ヶ月目の活動報告

●ふおれすと鉱山の主催事業

コーザン・ながぐつレンジャー【子どものお仕事体験プログラム】 6/24

初体験の子ばかりでしたが、今回も大変な仕事をやり遂げてくれましたよ！大雨のために決壊した橋をみんなの力をあわせて復活させちゃいました！

もりのようちえん【幼児の自然体験プログラム】 5/27, 28 □□□□□□□□

子どもたちが鉱山町の自然を舞台に、みんなで柴刈りをし、灰をつくって、森にまいたり、お腹の空いた鳥のために、森から、食べ物をさがしてきたりと、お父さんお母さんも一緒に楽しみました！

鉱山のんびり自然歩き【平日プログラム】

残雪が残る中、ミズバショウを訪ねて春を探しにお散歩に出かけました。目的地にはたどり着けなかったけど、カエルの鳴き声や少しずつ見えてきた芽吹きを発見しました。

チカタビレンジャー【里山づくりボランティア】 4/29 5/13 6/4, 10

百年先の鉱山町の森を想う森づくりは、トドマツ林の中でひっそり生きている色々な種類の木の赤ちゃんを調査したり、引越しする作業を行いました。レンジャーはまだまだ募集中です！

鉱山町フラワーソン 5/20, 21

「市民と行う調査シリーズ」のフラワーソンも今年で4年目。同じ場所の植物たちが毎年どんな状態なのか調査しています。調査結果はHPに掲載中です！



●ふおれすと鉱山の協働事業

ふおれすと鉱山ゴールドスペシャルウィーク 5/3~7

今回も800人を越える方々が遊びに来てくれました。モモンガくらぶをはじめとする強力なボランティアメンバーも加わり、もりだくさんのプログラムでした。石窯パン、早朝野鳥観察、森のcafe、クラフト、クライミング選手権などなど。書ききれませんが、次回8月11日~13日もますますもりだくさん！



●NPO法人 モモンガくらぶの主催事業

早春の植物観察会 4/9

ヤナギやフクジュソウが開花したばかりの鉱山を歩きました。アカガエルの卵も見られましたが、本格的に植物たちが動き出すのはもうすぐかな。

おもしろい木を探そう・パートII 4/22

昨年12月来の自分の木との再会はどうだったかな？膨らんだ冬芽…。厳しい冬を乗り越えたんだなあ、これからは葉っぱが開いていくんだろうなあ。…いろいろ会話をしました。また会いに行きます。今度は、どんなに表情かなあ！？

ワンディハイク 4/23

「味覚」も味わう春のお散歩は毎年人気のプログラム。なかなか気温が上がらず、「味覚」も、やっとお目見え。でも、いっぱい、堪能しちゃいましたよー。



第3期コーザン・ネイチャーガイド (KoNG) 養成講座 5/13~14 6/1

第3期目に突入し、今年は13名の受講生がKoNGの資格を得るために精進します。ガイドになるためのいろいろなことを学んでいます。まだまだ続くこの講座も一般の方々にも開放していますので、是非のぞきにきてくださいね！

昆虫教室 6/11

昆虫に詳しい山田晴康さんを講師に招き、講義とフィールドワークを行いました。一日中、昆虫づくしてしたが、自然のミカタが増えた！興味のある方は、是非モモンガ「昆虫チーム」のドアを叩いてみては？



沢登り教室と登山教室 5/20 6/4, 25

本年度からスタートした「教室シリーズ」。室内講義を経ていよいよ実技へ…。初心者の方も、緊張しながらも、少しずつでも「デキル」ようになっていくのは、楽しいものですね！



●受託プログラム・その他の活動（学校対応など）

4月 室蘭市幼児サークル、苫小牧市親子サークル

5月 北広島市広葉中、ピノキオ幼稚園、伊達市ネイチャーウォッチングくらぶ、北広島市西部中、登別市幌別中、室蘭市幼児サークル

6月 登別市緑陽中、室蘭市蘭東中、市内幼児サークル、室蘭市北辰中、室蘭市向陽中、白老町竹浦小、特別支援教育振興協議会、登別市子ども劇場、室蘭市幼児サークル、室蘭市桜ヶ丘小、登別市幌別西小、北大学生チーム

「コーザン・ながぐつレンジャー」という子ども向け事業をやっている。子どもにふおれすと鉱山の「仕事」を手伝ってもらおう事業だ。最初は「子どもに仕事をさせる」なんていう事業をやっちゃっていいのか、と少々不安であった。今までは「自然っておもしろいよ、きもちいいよ、ほら、楽しいでしょ、遊ぼうよ」といった感じの、楽しげな事業を展開していただけに、急に「君たち、遊んでいる場合ではないよ。鉱山のために働こうではないか」なんて言ったら、「わざわざ子どもを集めておいて、ただ働かせるなんてひどいんじゃないですか」と返されるような気がしていたのだ。実際の仕事も、魚を調査したり、動物を探すようなものはまだいい方で、あとは草刈りとか除雪とか枝はらいとか、地味なものばかりだ。まあ、好き好んでわざわざ鉱山にまで働きに来る子なんてそんなにいないだろうなあ、なんて思いながらチラシを配布した。

そしたら、受付の日にはもう電話は鳴りっぱなし。ものの20分で定員が埋まってしまった。締め切った後もやむを得ずお断りする状況が続いたため、急遽追加募集をするぐらいだった。びっくりした。

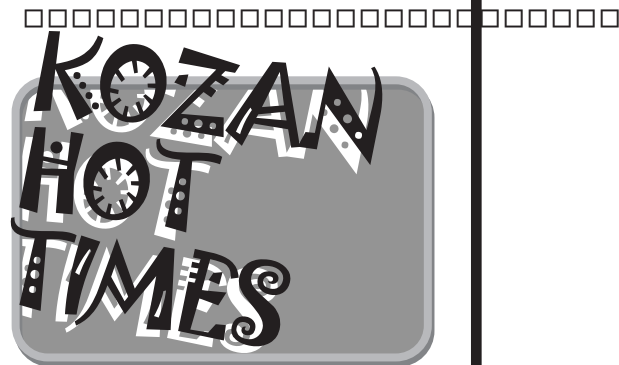
そして当日。果たして子ども達はどんな顔でやってくるのかと思ひながら迎えたのだが、どの子も「オレははたらきに来たぜ！」ってな感じで、ながぐつを提げて、堂々と玄関をくぐる。そしてぼくらは、安全管理のために、登別市マーク入りの防災ヘルメットを子ども達にかぶせるのだけれど、わざと他のお客さんの前を歩いたりして、なんか肩で風を切るように歩き回っている…。ために、参加者の男の子に聞いてみた。「いいの？これから、大変な仕事をたくさんやらされるんだけど、遊びじゃなくてもいいの？」「うん、こっちの方がいい。だって、はたらくのは男らしいからね」

…要するに、嬉しいのだ。「ふおれすと鉱山では、自分はりっぱな働き手として認められている」という所属感、というか居場所感、みたいなのがとても嬉しいのだと思う。だから、子ども達は、いそいそと草刈りや除雪に出かけていくのだ。

そして、最後にぼくらは、子ども達に「ホント、君たちのおかげで助かったよ。ありがとう！」と、心を込めて、本気で感謝の言葉をかける。

そんな言葉にちょっと照れているレンジャー諸君が、ヘルメットの脇から流れる汗をぬぐう姿は、とってもステキだ。

上田 (Program director)



ながぐつとヘルメット



「仕事すんの、カッコイイ。」

毎年、初夏に行う登山口から頂上までの笹刈り作業には刈払い機や混合油の荷揚げの辛さと虫との戦いとケガをしないように安全に対する慎重さが求められる。私も一度開通したものを荒れた状態にしておけないというボランティア精神で参加している。と言うとカッコよく聞こえるが、何のことはない。デスクワークに飽きた人間が「能のないやつはせめて体を動かせ」のだからの言葉どおり、溜まっているフラストレーションを笹刈り作業の汗とともに発散しているだけなのだ。

澤田 時人
(ふおれすと鉱山センター長)

#1 登山道整備は楽しい？



森は夜も眠らない ～夜の鳥たち編～

えんどうめぐみの 森のひみつシリーズ①7

鉾山にも初夏がやってきました！日が長くなり、山の端に落陽のなごりがみられる今日この頃、蒼い夕間に誘われてふらりと森に出かけたくくなります。そんな夏の夜を楽しませてくれるものといえば、いろんな鳴き声たちです。

夜聞こえて来る鳴き声といえば、まず、フクロウの仲間が思い浮かぶでしょうか。ここ、鉾山の森では、夏鳥として渡ってくるコノハズクの声が山あいには響きます。また、「キョ、キョ、キョ…」とヨタカの声も切なげに響き渡ります。霧雨降る夜にも鳴き声が聞こえます。姿かたちは、じっとしていれば落ちている枝そのもの。

賑やかといえば…、民家の近くでも鳴き声が聞こえる、ウグイスの仲間エソセンニユウ。北海道では「ジョッピン（錠）かけたか？」という聞きなし（さえずりを人の言葉に置き換えて覚えやすくしたもの）があります。また、同じような声で飛び回る声の持ち主、ホトトギスも賑やか。同じ仲間のジュウイチの「ジュウイチィ」の声も今年は聞いています。ちょっと短足な（失礼!?) ヤマシギたちも、飛びながら鳴いています。その鳴き声は、「ピチッ、ピチッ」と響きます。よおく耳を澄ますとその後「ブーブー」という声が入ります。これが、聞こえた時には、ちょっとにやりとしてしまいます。

そして、鉾山の森に、「ヒー、ヒョー、キーン」と響く声。ツグミの仲間、トラツグミたちの声です。高い声、低い声の鳴き交わり、近くから、遠くから聞こえてきます。この声の持ち主は、古来から鶴（ぬえ）という妖怪だと恐れられていました。このトラツグミ、オスもメスも容姿は一緒。鳴き交わりの声を聞いていると、メスオスの区別があるのか、どんなおしゃべりをしているのか、とても知りたくなってしまいます。そんな鳴き交わりを想像していますが、この目でみていないので、もしかしたら…。

初夏の鉾山町、夜の森。霧雨降る一見静かな森にも、生き物の気配がたくさん潜んでいます。



ほんねのスタッフ

⑬ ケータイのない生活

僕はケータイを持っていません。だから、「それじゃあ、後で連絡するから、ケータイの番号教えて。」と言われて、「いや、あの、ケータイ持っていないんです。」と答えると、少々戸惑った表情になる方もいます。

でも、ケータイがないからといって、決定的に困ったり、ピンチに陥ったりした記憶はありません。今でこそ一人一台ですが、つい一昔前はなくて当たり前、娘にかかってきた男の子からの電話を、オトサンが取り次がなかったりといったことが日常的な風景だったのです。現代人は利便さばかりを追及して大切なことを見失ってはいないか！などと大上段に構えて叫ぶつもりはありませんが、便利なものがひとつ無いことで、例えば待ち合わせの時には時間や場所をよく確認するなど、日常生活の中で集中力や想像力を高めて行動することが、きっと身に付いている（んじゃないかなあ）と思っています。

「ふおれすと鉾山」周辺は、ケータイの電波が通りづらい場所もあって、スタッフ間でもケータイでやり取りするということはあまりありません。ケータイがなくても肩身の狭い思いをしなくていいことに、少々ほっとしているのが最近の「本音」です。(M)



リレーエッセイ Roots and Shoots リトル・ヴォイス

何故、私…？

片桐 香織

ここへこうして寄せている事が不思議。

始めは去年（H17）の春先、1歳を迎えた娘と育児サークルに入ろうと探していた。いざとなると入るサークル、入りたいサークルが無い、急遽バタバタと立ち上げることに相成った。

子供を持って始めて知ることであるが、街には子供連れで遊んだり、快く食事が出来るところが少ない。確かに幼児はこちらの言うことお構いなし、エネルギーは満タンの怪獣である。時としてどンドンと勝手に動き回り、奇声を発し、床に転がる、泣き、叫ぶ。

サークルで知り合った仲間と、このエネルギーを発散させようと色々なところへ探索へ出掛けるようになった。良い場所はみんなにも知ってもらいたいとサークルでの活動内容に盛り込んだ。

そこで『ふおれすと鉱山』である。冒頭の・・・何故、私？・・・は自然と遊ぶ事など思いもよらず（告白します、今も虫は苦手です）。

昨年夏、川遊びを体験した。子ども達の嬉しそうな顔、いくら叫んでも苦情なし。秋、ダッチオーブンで焼き芋をした。いつものお芋なのにとびきり美味である。冬、そり滑りをした。病み付きになった、私が。

最初にスタッフの方からの教えがあった「子供さんをスタッフに預けて見ているのは止めて下さい、お母さんも一緒になって楽しんで下さい。それを見ている子供が自然と遊ぶ楽しさを覚えるのです」

どこへ行っても1、2歳児の活動は扱ったことがないと言われる。そこを「莓のきもち」では一緒に考えて来た。ふおれすと鉱山でも「あまりの小ささに何が出来て何が出来ないのかが分からない」と言われ、私たち親も我が子ながら初めての事で、未だに手探りである。

スタッフの方たちはいつでも私たちの言葉に耳を傾けてくれる。少したつと実行してくれている。私たちもそのお礼は本気になって遊び、笑顔と言う愛でお返ししたいと思う。人は人なしでは生きていけない、静かに時に荒々しく見守る自然もそうである、人は自然なしでも生きていけない。

今までのようにスタッフの方たちが、僅かな事にも気持ちよく耳を傾けてくれる、その姿勢を望みます。



登別生息歴：丸4年

年齢：知りたい方は直接本人へ

家族：高校教員の夫と2歳の娘

愛称：カオリン

H17年、育児サークル『莓のきもち』代表に。現在あれよあれよと言う間に30組（65名）の大所帯に。代表と言ってもスタッフと会員さんに大いに支えられ

私自身も育てられています。

人はどこまでもいつまでも勉強です・・・とほほ。

EVENT INFORMATION

イベントチェック

ふおれすと鉱山主催事業

- 8/11(金)-13(日) 夏休みスペシャルウィーク
- 9/16(土) チカタピレンジャー
- 9/18(月・祝) 猛きん渡り調査

NPO法人モモンガくらぶ主催事業

- 8/16(水)-17(木) ふるさとの川を知ろう
- 8/26(土)-27(日) 第3期コーザンネイチャーガイド養成講座(川・植物編)
- 9/16(土)-17(日) 第3期コーザンネイチャーガイド養成講座(昆虫・ガイド編)
- 10/7(土)-9(祝) 木と森のあそび場

幼児の自然体験活動!

もりのようちえん

自然の中でめいいっぱい遊びます。

- 8/26(土)、27日(日)
- 9/23(土)、24(日)

流れるその汗がかっこいい!

ながぐつレンジャー

ネイチャーセンターのお仕事体験。

- I 8/26(土)、9/23(土)
10/7(土)
- II 8/12(土)、9/16(土)
10/21(土)

森と川の CHECK IT!! スペシャルウィーク

夏休みはやっぱりふおれすと鉱山で楽しんじゃいましょう!!、乳幼児から大人の方まで楽しめるプログラムをご用意しています。今回は、旬の遊び「川」と、木育の「森」と関わるプログラムが目白押しです。ちょっと進化したスペにきてね!

8/11(金)~8/13(日)

今回はなんととっても、いつ来ても自由に遊べる川のあそび場と森のあそび場が目白押し!また、ふおれすと鉱山が提供するプログラムも一挙公開。この夏、お得に遊ぶならふおれすと鉱山へ!!ご家族でお越しください。

ボランティアスタッフ 同時募集中!!

お問い合わせ: ふおれすと鉱山まで

10月7日(金)~9日(月・祝) 今年もアしがやってくる!!

NPO法人モモンガくらぶ主催

木と森のあそび場開催!

ふおれすと鉱山流里山づくりの活動や、木育センターハウス(ログハウス・森のおうち)づくり、森の子育てサロンなど、「木」や「森」に関わるいろんな取り組みが、このふおれすと鉱山では進められているよ。今度10月のイベント「木と森のあそび場(NPO法人モモンガくらぶ主催)」には、全身を使って遊べる木のおもちゃ(大型遊具)が今年も大集合しちゃいますよ。

HOT NEWS

森のおうちが着々と作られ始めているって気がついていましたか?週末には、ふおれすと鉱山周辺にはチェーンソーの音が鳴り響いています。是非、見に行ってくださいね。



(村上寛記)

ふおれすと鉱山ご利用のご案内

開館: 9:00~17:30 入館料: 無料

休館日: 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日が休館となります)

・工作室・図書室はご自由に使用いただけます。そのほかに双眼鏡、マウンテンバイク、調理台などをご利用いただけます。

EDITOR'S LOUNGE

今年の夏は、ぱっと晴れやかにならない、胆振管内らしい天候なんだそう。だから、つかの間の晴れ間にはおもいきり遊びたい。川や森、山で遊べることはつきない。「思ったが吉日」、そうしないとなかなか時はまってはくれない。何事も日常のちょっとした時間の使いかたの工夫しだい。大切なことを優先したいね。

おくづけ

登別市ネイチャーセンター通信誌「鉱山録」 Vol.17

発行: 2006年7月

発行所: 〒059-0021 北海道登別市鉱山町8-3

電話番号: 0143-85-2569 FAX: 0143-81-5808

E-Mail: kouzan@pluto.plala.or.jp

URL: <http://www.noboribetsu.ed.jp/~ncenter/>